

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

JC714 U.S. PRO  
10/034865  
12/27/01

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年12月27日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-399589

出 願 人

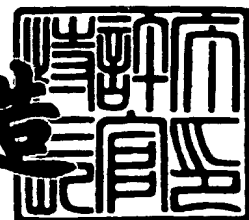
Applicant(s):

シャープ株式会社

2001年11月 2日

特 許 庁 長 官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3097380

【書類名】 特許願

【整理番号】 00J04807

【提出日】 平成12年12月27日

【あて先】 特許庁長官 及川 耕造 殿

【国際特許分類】 G11B 19/20

【発明の名称】 記録再生装置

【請求項の数】 2

【発明者】

    【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

    【氏名】 広兼 順司

【発明者】

    【住所又は居所】 大阪府大阪市阿倍野区長池町 2 2 番 2 2 号 シャープ株式会社内

    【氏名】 岩田 昇

【特許出願人】

    【識別番号】 000005049

    【氏名又は名称】 シャープ株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100080034

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 原 謙三

    【電話番号】 06-6351-4384

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 003229

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

【物件名】            要約書    1

【包括委任状番号】    9003082

【プルーフの要否】    要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 記録再生装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

光源と、該光源から出射されたレーザ光を、可撓性を有するディスクに集束して照射する集光手段と、上記ディスクを回転駆動する回転駆動手段とを備えた記録再生装置において、

上記ディスクと上記集光手段との間に配され、該集光手段と連動する第 1 安定化板と、上記ディスクを挟んで上記第 1 安定化板と対向するように配され、かつ、揺動可能に支持される、対向平面を有するスライダーとを備え、

上記第 1 安定化板には、上記レーザ光の光路上に、該レーザ光が通過し得る開口部が設けられていることを特徴とする記録再生装置。

【請求項 2】

開口部は、第 1 安定化板を通過するレーザ光の光路に対応したすり鉢状の形状であることを特徴とする請求項 1 に記載の記録再生装置。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、高密度な情報の記録・再生が可能であり、可撓性を有する光学ディスクに対して情報信号の記録および／または再生を行う記録再生装置に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

従来、レーザを用いて情報の記録・再生を行う、光ディスクや光磁気ディスク等の光学ディスクが知られている。近年、より多くの情報を記録するために、光学ディスクの高記録密度化が進められ、これに伴い、記録ピットは小サイズ化されている。

【0 0 0 3】

このように高記録密度化された光学ディスクを再生する光ピックアップでは、

微小領域に記録された情報を読み取るために、光学ディスクに集光させる光のスポットを微小な領域に絞り込む必要がある。このようにスポットサイズを小さくすることにより、より多くの情報を記録することができる。

## 【 0 0 0 4 】

上記スポットサイズは、使用する光源の波長 $\lambda$ に比例する一方、対物レンズにおける開口数 $NA$ に反比例する。従って、光のスポットサイズを小さくするには、使用する光源の波長 $\lambda$ を小さくするか、または、対物レンズにおける開口数 $NA$ を大きくする必要がある。

## 【 0 0 0 5 】

一方、使用する光源の波長 $\lambda$ を小さくするか、または、対物レンズにおける開口数 $NA$ を大きくした場合、光学ディスクが傾いた際、光ビームには大きなコマ収差が発生する。これにより、光ビームを光学ディスクに精度良く集光することができなくなる。

## 【 0 0 0 6 】

そこで、従来、光学ディスク内部の光路を短くして、光学ディスク基板の傾きに対する許容量を拡大するために、光学ディスクの薄型化を図ってきた。

## 【 0 0 0 7 】

例えば、CD-ROM (Compact Disc Read-Only Memory) は、開口数 $NA = 0.45$ 、波長 $\lambda = 780 \text{ nm}$ 、光学ディスク基板の厚さは $1.2 \text{ mm}$ である。一方、DVD-ROM (Digital Versatile Disc Read-Only Memory) は、開口数 $NA = 0.6$ 、波長 $\lambda = 655 \text{ nm}$ 、光学ディスク基板の厚さは $0.6 \text{ mm}$ である。このように、DVD-ROMはCD-ROMと比較して、使用する光源の波長 $\lambda$ を小さくし、対物レンズにおける開口数 $NA$ を大きくし、光学ディスク基板の厚さを薄くすることにより、記録容量の増大と光学ディスク基板の傾きに対する許容量の拡大を図ることができる。

## 【 0 0 0 8 】

しかしながら、さらに、光学ディスク基板の傾きに対する許容量の拡大を図るため、光学ディスク基板の厚さをさらに薄くすると、光学ディスク基板の剛性が低下し、これにより、光学ディスク基板自体の面振れに伴う光学ディスク基板の

傾きは大きくなり逆効果となる。このため、光源の波長 $\lambda$ を短くすることや、対物レンズの開口数NAを大きくすることには限界がある。

## 【0009】

そこで、特開平10-308059号公報には、光学ディスクの回転駆動時の状態を安定させることにより、さらに、厚さの薄い光学ディスク、開口数NAの大きな対物レンズおよび波長 $\lambda$ の短い光を用いることができる記録再生装置が記載されている。上記公報における記録再生装置の構成を図12に示す。

## 【0010】

同図に示すように、光学ディスク101に対して情報の記録・再生を行う記録再生装置は、光学ディスク101を回転させるスピンドル105、光ビームを光学ディスク101に集光照射する光ピックアップ103および光学ディスク101の回転状態を安定化させる安定化板102を備えている。光学ディスク101は非常に薄く、可撓性を有している。また、光学ディスク101は磁性を有するセンターハブ104を有しており、光学ディスク101は、センターハブ104における磁性結合によりスピンドル105に固定される。光ピックアップ103は対物レンズ群等の集光手段を有する。安定化板102と光ピックアップ103とは光学ディスク101を挟んで対向して配されている。

## 【0011】

光学ディスク101における情報の記録・再生時には、光学ディスク101を安定化板102に近接させて回転させる。このとき、光学ディスク101と安定化板102との間の空間が減圧状態となる。このため、可撓性を有する光学ディスク101は、安定化板102に吸い寄せられて、光学ディスク101と安定化板102との間隔を一定に保ちながら回転する。従って、光学ディスク101の回転時の面振れが抑制される。これにより、光の波長を650nm以下とし、対物レンズ群の開口数NAを0.7以上とする光ピックアップ103を用いた記録再生装置での記録・再生を実現することができる。

## 【0012】

さらに、上記公報には、図13に示すように、安定化板102を一体的に構成したディスクカートリッジ106を用いる記録再生装置が記載されている。この

場合、光ピックアップ103はディスクカートリッジ106の図示しない開口部から挿入される。このような記録再生装置においても、ディスクカートリッジ106に安定化板102を備えることにより、図12に示す記録再生装置と同様、光学ディスク101の回転時の面振れを抑制することができ、厚さの薄い光学ディスク101、開口数NAの大きな対物レンズおよび波長 $\lambda$ の短い光を用いた記録・再生を実現することができる。

## 【0013】

## 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記の構成によれば、以下のような問題がある。

## 【0014】

一般に、光学ディスクの記録・再生の際、光学ディスクの情報記録面を、常に対物レンズ等の集光手段の焦点深度内に保持するために、光学ディスクと集光手段との距離を一定に保ち、レーザ光を合焦状態に維持するフォーカス制御が行われる。

## 【0015】

このように、光学ディスク101に情報の記録・再生を行う際、フォーカス制御が行われ、光ピックアップ103が光学ディスク101に近接することとなる。このとき、上記公報に記載の構成では、図12に示す記録再生装置においても、図13に示すディスクカートリッジ106を用いた記録再生装置においても、光ピックアップ103のディスク101と対向する面は対物レンズ等の集光手段を有する面となるが、この面は比較的凹凸の大きな面である。このため、フォーカス制御を行うため集光手段が移動する度に集光手段周辺、即ち、光ピックアップ103周辺に圧力変動が生じ、光ピックアップ103と光学ディスク101との間の空気圧力は変動しやすい。従って、集光手段が移動することによって、光学ディスク101に面振れが生じ、安定してフォーカス制御を行うことができない。

## 【0016】

このように、従来、光ピックアップにおける集光手段が、例えば、フォーカス制御のために移動する際、光学ディスク周辺に圧力変動が生じ、これにより、光

学ディスクに面振れが生じていた。従って、安定したフォーカス制御ができないため、良好な記録・再生を行うことが困難であった。

【0017】

本発明は上記事情に鑑みてなされたものであり、その目的は、対物レンズが移動する際等における圧力変動を抑制することにより、光学ディスクの面振れを抑制し、安定して良好な記録・再生の実現を図ることができる記録再生装置を提供することである。

【0018】

【課題を解決するための手段】

本発明の記録再生装置は、上記の課題を解決するために、光源と、該光源から出射されたレーザ光を、可撓性を有するディスクに集束して照射する集光手段と、上記ディスクを回転駆動する回転駆動手段とを備えた記録再生装置において、上記ディスクと上記集光手段との間に配され、該集光手段と連動する第1安定化板と、上記ディスクを挟んで上記第1安定化板と対向するように配され、かつ、揺動可能に支持される、対向平面を有するスライダーとを備え、上記第1安定化板には、上記レーザ光の光路上に、該レーザ光が通過し得る開口部が設けられていることを特徴としている。

【0019】

上記の構成によれば、ディスクの記録・再生時、即ち、ディスクの回転駆動時には、ディスクが回転することにより、ディスクとスライダーとの間に空気が流れ込み、また、スライダーは対向平面を有するため、スライダーとディスクとの間の空気圧力が上昇する。従って、スライダーとディスクとの間は加圧状態となる。同様に、ディスクが回転することにより、ディスクと第1安定化板との間にも空気が流れ込み、従って、ディスクと第1安定化板との間も加圧状態となっている。また、スライダーは揺動可能に支持されている。このためスライダーは、ディスクと第1安定化板との間の空気圧力と、スライダーとディスクとの間の空気圧力とが釣り合うような位置に移動することができる。

【0020】

このように、スライダーとディスクとの間、および、第1安定化板とディスク



との間が共に加圧状態となり、それらが釣り合うことにより、ディスクはスライダーおよび第1安定化板と一定の間隔を保ちながら回転する。これにより、ディスクの回転時におけるディスクの面振れを抑制することができ、ディスクの回転の安定化を図ることができる。

#### 【0021】

ここで、第1安定化板を設けず、ディスクと集光手段とがそれらの間に何も挟まず直接対向している場合に、例えば、集光手段が光ピックアップに設けられて駆動されたとすると、光ピックアップのディスクと対向する面は上記集光手段を有する面となるが、この面は比較的凹凸の大きな面である。このため、集光手段が移動する度に集光手段周辺に圧力変動が生じ、集光手段とディスクとの間の空気圧力は変動しやすい。従って、集光手段が移動することによって、ディスクに面振れが生じる。

#### 【0022】

しかしながら、集光手段と連動する第1安定化板をディスクと集光手段との間に配することにより、ディスクに対向する集光手段側の面が平坦な面となり、その面上におけるディスクとの間の空気圧力は均一化される。このため、例えばフォーカス制御を行うために集光手段が移動したとしても、第1安定化板とディスクとの間の空気圧力の変動が抑制され、ディスクの面振れを抑制することができる。

#### 【0023】

また、スライダーがディスクに対して垂直方向に揺動可能に支持されていることにより、例えばフォーカス制御等を行う際に集光手段を有する光ピックアップ等が移動して、ディスクと第1安定化板との間の空気圧力に変動があった場合でも、それに伴い、ディスクと第1安定化板との間の空気圧力と、ディスクとスライダーとの間の空気圧力が釣り合うように、ディスクとスライダーとの間の空気圧力を変化させることができる。

#### 【0024】

これにより、集光手段がディスクに対して移動することがあり、第1安定化板が集光手段と連動して移動したとしても、ディスクと第1安定化板との間の空気

圧力と、ディスクとスライダーとの間の空気圧力とが釣り合うように、スライダーもディスクに対して進退移動する。しかも、スライダーも対向平面を有するので、相互の空気圧力の釣り合いが、容易かつ安定してとれる。従って、ディスク周辺での圧力変動によるディスクの垂直方向への位置変動、即ち、面振れが抑制され、例えばフォーカス制御、および、トラッキング等が安定し、容易となる。

## 【 0 0 2 5 】

この結果、集光手段や集光手段を備えた光ピックアップが移動しても、ディスクの回転の安定化を図ることができることにより、薄いディスクを用いても、安定して良好な記録・再生の実現を図ることができる記録再生装置を提供することができる。また、薄いディスクを用いることができることにより、ディスク内部の光路を短くすることができ、ディスクの傾きに対する許容量を大きくすることができる。従って、ディスクの高記録密度化を図ることができる。

## 【 0 0 2 6 】

さらに、第 1 安定化板には、レーザ光の光路上に、レーザ光が通過し得る開口部が設けられていることにより、第 1 安定化板の材料は、レーザ光が透過できるような、例えば、透明なものに限定されず、不透明なものでも採用可能となる。このように、第 1 安定化板の材料の選択の範囲が広がり、従って、加工性が良く、耐久性の良い材料から第 1 安定化板を構成することができる。

## 【 0 0 2 7 】

また、第 1 安定化板には上記開口部が設けられていることにより、レーザ光は第 1 安定化板表面で反射することなく第 1 安定化板の開口部内を通過することができる。これにより、レーザ光の利用効率の向上を図ることができ、例えば、第 1 安定化板が開口部を有さず、このため、レーザ光の一部が第 1 安定化板表面で反射する場合と比較すると、低い光パワーでの情報の記録・再生が実現し、記録再生装置の低消費電力化を図ることができる。

## 【 0 0 2 8 】

上記記録再生装置は、開口部が、第 1 安定化板を通過するレーザ光の光路に対応したすり鉢状の形状であることが好ましい。

## 【 0 0 2 9 】

上記の構成によれば、第1安定化板で通過するレーザ光を遮ることなく、開口部におけるディスクと対向する部分の大きさを小さくすることができる。従って、ディスク回転時に開口部において発生する空気の乱流を抑制することができ、ディスクと第1安定化板との間の空気圧力の乱れを抑制することができる。これにより、ディスクの面振れを抑制することができ、ディスクの回転の安定化を図ることができる。

#### 【0030】

##### 【発明の実施の形態】

##### 〔実施の形態1〕

本発明の実施の一形態について図1ないし図6、図12に基づいて説明すれば、以下の通りである。

#### 【0031】

図1は、記録再生装置の要部の構成を示す断面図である。本実施の形態に係る記録再生装置は、同図に示すように、スピンドル（回転駆動手段）3、光ピックアップ4、第1安定化板5、支持部6、スライダー7およびサスペンション8を備えており、ディスク1に情報を記録・再生する。

#### 【0032】

光ピックアップ4上部には第1安定化板5が一体的に固定されている。ディスク1の一方の面には所定の距離を置いて第1安定化板5を備えた光ピックアップ4が設けられ、ディスク1の他方の面上の第1安定化板5および光ピックアップ4に対向する位置にはスライダー7が配置されている。光ピックアップ4とスライダー7とは、スライダー7を支持する支持部材である支持部6とサスペンション8とを介して一体的に固定されている。

#### 【0033】

ディスク1は透明樹脂からなっており、その厚さは薄く、可撓性を有する。また、ディスク1は、磁性を有するセンターハブ2を有しており、磁気結合によりスピンドル3にチャッキングされる。スピンドル3が図示しないモータにより回転駆動されることにより、ディスク1は回転駆動される。情報の記録・再生時には、ディスク1は回転している。

## 【 0 0 3 4 】

なお、ディスク 1 は、可撓性を有する光ディスクであれば特に限定されるものではなく、基板表面に凹部からなるピット列が形成された ROM ( Read-Only Memory ) ディスクであっても、記録媒体として有機色素材料が用いられた追記型光ディスクであっても、また、記録媒体として相変化材料が用いられた書き換え可能型光ディスクであってもかまわない。

## 【 0 0 3 5 】

ここでは、ディスク 1 として追記型光ディスクまたは書き換え可能型光ディスクを用いるとする。このとき、ディスク 1 は、図 2 に示すように、表面に凹凸の案内溝が形成されたディスク基板 1 a と、凹凸の案内溝を有する面に形成された記録媒体 1 b と、記録媒体 1 b を保護するための保護層 1 c とからなる。

## 【 0 0 3 6 】

光ピックアップ 4 は図 2 に示すように、光ピックアップ筐体 1 5 を備えている。光ピックアップ筐体 1 5 内部には、発光検出光学系 ( 光源 ) 1 0、二軸アクチュエータ 1 4、レンズホルダ 1 3 および対物レンズ ( 集光手段 ) 1 2 が配されている。

## 【 0 0 3 7 】

発光検出光学系 1 0 は、光源である発光素子を有し、レーザー光 1 1 をディスク 1 方向に出射する。二軸アクチュエータ 1 4 は、光ピックアップ筐体 1 5 に取り付けられており、レンズホルダ 1 3 を支持する。また、レンズホルダ 1 3 は対物レンズ 1 2 を、発光検出光学系 1 0 と光ピックアップ 4 上部に配された第 1 安定化板 5 との間に保持する。

## 【 0 0 3 8 】

二軸アクチュエータ 1 4 内に設けられたコイルが発生する電磁力により、対物レンズ 1 2 は、ディスク 1 の凹凸の案内溝に対して、フォーカス方向 ( ディスク 1 に対して垂直方向 ) 及びトラッキング方向 ( 図 1 参照、図中矢印方向 ) に変位自在に駆動され、記録再生装置に振動等が与えられても、ディスク 1 の面振れやディスク 1 上に形成されたトラックの偏心に追従できるようになっている。

## 【 0 0 3 9 】

発光検出光学系 1 0 から出射されたレーザ光 1 1 は、対物レンズ 1 2 により集束されてディスク 1 に照射される。照射されたレーザ光 1 1 はディスク 1 の記録媒体 1 b で反射される。この記録媒体 1 b からの反射光は再び対物レンズ 1 2 を透過して発光検出光学系 1 0 へと導かれ、発光検出光学系 1 0 内の図示しない受光素子にて検出される。これにより、情報の記録・再生が行われる。

## 【 0 0 4 0 】

また、光ピックアップ 4 の上部、即ち、光ピックアップ 4 におけるディスク 1 側の面上には、第 1 安定化板 5 がディスク 1 と所定の距離をおいて設けられており、光ピックアップ 4 と第 1 安定化板 5 とは連動する。

## 【 0 0 4 1 】

第 1 安定化板 5 は、図 2 に示すように、レーザ光 1 1 の光路上に、レーザ光 1 1 が通過し得る開口部 5 a が設けられている。発光検出光学系 1 0 から出射されてディスク 1 に照射され、あるいはディスク 1 から反射されたレーザ光 1 1 は、開口部 5 a を通過する。

## 【 0 0 4 2 】

支持部 6 は、一端には光ピックアップ 4 が固定されており、他端には先端にスライダ 7 を備えたサスペンション 8 が固定されている。支持部 6 は、図示しないリニアモータによって駆動され、光ピックアップ 4 およびスライダ 7 をディスク 1 の所定位置へと導く。これにより、光ピックアップ 4 と連動する第 1 安定化板 5 およびスライダ 7 は一体的に移動する。

## 【 0 0 4 3 】

スライダ 7 は、サスペンション 8 により支持部 6 に対してディスク 1 面の垂直方向に揺動可能に支持されており、第 1 安定化板 5 とディスク 1 を挟んで対向する。スライダ 7 における第 1 安定化板 5 と対向する面は平面となっている。ディスク 1 の記録・再生時、即ち、ディスク 1 の回転駆動時には、ディスク 1 が回転することにより、ディスク 1 とスライダ 7 との間に空気が流れ込み、また、スライダ 7 は対向平面を有するため、スライダ 7 とディスク 1 との間の空気圧力が上昇する。従って、スライダ 7 とディスク 1 との間は加圧状態となる。同様に、ディスク 1 が回転することにより、ディスク 1 と第 1 安定化板 5 との

間にも空気が流れ込み、従って、ディスク1と第1安定化板5との間も加圧状態となっている。また、スライダー7は揺動可能に支持されている。このため、スライダー7は、ディスク1と第1安定化板5との間の空気圧力と、スライダー7とディスク1との間の空気圧力とが釣り合うような位置に移動することができる。

#### 【0044】

このように、スライダー7とディスク1との間、および、第1安定化板5とディスク1との間が共に加圧状態となり、それらが釣り合うことにより、ディスク1はスライダー7および第1安定化板5と一定の間隔を保ちながら回転する。これにより、ディスク1の回転時におけるディスク1の面振れを抑制することができる、ディスク1の回転の安定化を図ることができる。

#### 【0045】

なお、上記のようにスライダー7がディスク1に対する対向平面を有する場合は、ディスク1が回転することにより、ディスク1とスライダー7との間に空気が流れ込み、スライダー7とディスク1との間は加圧状態となるが、スライダー7の対向平面がディスク1の回転時に空気がディスク1とスライダー7との間から流れ出るような溝構造を有する場合は、スライダー7とディスク1との間は減圧状態となる。

#### 【0046】

一般に、ディスク1への情報の記録・再生の際、ディスク1における記録媒体1bを、常に対物レンズ12の焦点深度内に保持するために、ディスク1と対物レンズ12との距離を一定に保ち、レーザ光11を合焦状態に維持するフォーカス制御が行われる。

#### 【0047】

ここで、図12に示すように、ディスク101と光ピックアップ103とがそれらの間に何も挟まず直接対向している場合に、光ピックアップ103のディスク101と対向する面は、例えば対物レンズ等の集光手段を有する面となるが、この面は比較的凹凸の大きな面である。このため、フォーカス制御の際、集光手段が移動する度に集光手段周辺に圧力変動が生じ、集光手段とディスク101と

の間の空気圧力は変動しやすい。従って、集光手段が移動することによって、ディスク101に面振れが生じる。

## 【0048】

しかしながら、図1に示した上記構成によれば、第1安定化板5をディスク1と対物レンズ12との間に配することにより、ディスク1に対向する光ピックアップ4側の面は第1安定化板5の平坦な面となり、その面上におけるディスク1との間の空気圧力は均一化される。このため、例えばフォーカス制御を行うために対物レンズ12が移動したとしても、第1安定化板5とディスク1との間の空気圧力の変動が抑制され、ディスク1の面振れを抑制することができる。

## 【0049】

また、スライダ7がディスク1に対して垂直方向に揺動可能に支持されていることにより、例えばフォーカス制御等を行う際に対物レンズ12を有する光ピックアップ4が移動して、ディスク1と第1安定化板5との間の空気圧力に変動があった場合でも、それに伴い、ディスク1と第1安定化板5との間の空気圧力と、ディスク1とスライダ7との間の空気圧力とが釣り合うように、ディスク1とスライダ7との間の空気圧力を変化させることができる。

## 【0050】

これにより、対物レンズ12がディスク1に対して移動したり、第1安定化板5が光ピックアップ4と連動して移動したとしても、ディスク1と第1安定化板5との間の空気圧力と、ディスク1とスライダ7との間の空気圧力とが釣り合うように、スライダ7もディスク1に対して進退移動する。しかも、スライダ7はディスク1に対向した平面（対向平面）を有するので、スライダ7とディスク1との間の空気圧力の釣合いが、容易かつ安定してとれる。従って、ディスク1周辺での圧力変動によるディスク1の垂直方向への位置変動、即ち、面振れが抑制され、既存のサーボ技術を用いた二軸アクチュエータ14を用いても、フォーカス制御や、レーザ光11をディスク1のトラック方向に追従させるトラッキング等が安定し、容易となる。

## 【0051】

この結果、対物レンズ12や光ピックアップ4が移動しても、ディスク1の回

転の安定化を図ることができることにより、ディスク 1 として薄いディスクを用いても、安定して良好な記録・再生の実現を図ることができる記録再生装置を提供することができる。また、薄いディスクを用いることができることにより、ディスク 1 内部の光路を短くすることができ、ディスク 1 の傾きに対する許容量を大きくすることができる。従って、ディスク 1 の高記録密度化を図ることができる。

## 【 0 0 5 2 】

さらに、第 1 安定化板 5 には、レーザ光 1 1 の光路上に、レーザ光 1 1 が通過し得る開口部 5 a が設けられていることにより、第 1 安定化板 5 の材料は、レーザ光 1 1 が透過できるような、例えば、透明なものに限定されず、不透明なものでも採用可能となる。このように、第 1 安定化板 5 の材料の選択の範囲が制限されることなく、従って、加工性が良く、耐久性の良い材料から第 1 安定化板 5 を構成することができる。

## 【 0 0 5 3 】

また、第 1 安定化板 5 が開口部 5 a を有することにより、レーザ光 1 1 は第 1 安定化板 5 表面で反射することなく開口部 5 a 内を通過することができる。これにより、レーザ光 1 1 の利用効率の向上を図ることができ、例えば、第 1 安定化板 5 が開口部 5 a を有さず、このため、レーザ光 1 1 の一部が第 1 安定化板 5 表面で反射する場合と比較すると、低い光パワーでの情報の記録・再生が実現し、記録再生装置の低消費電力化を図ることができる。

## 【 0 0 5 4 】

また、開口部 5 a の形状は、レーザ光 1 1 が通過できるものであればよく、例えば円柱状であってもよいが、図 3 に示すように、第 1 安定化板 5 を通過するレーザ光 1 1 の光路に対応したすり鉢状の形状であることが望ましい。

## 【 0 0 5 5 】

開口部 5 a が第 1 安定化板 5 を通過するレーザ光 1 1 の光路に対応したすり鉢状の形状であることにより、第 1 安定化板 5 においてレーザ光 1 1 を遮ることなく、開口部 5 a におけるディスク 1 と対向する部分の大きさを小さくすることができる。従って、ディスク 1 回転時に開口部 5 a において発生する空気の乱流を



抑制することができ、ディスク1と第1安定化板5との間の空気圧力の乱れを抑制することができる。これにより、ディスク1の面振れを抑制することができ、ディスク1の回転の安定化を図ることができる。

## 【0056】

なお、ディスク1は光ディスクに限定されるものではなく、例えば、記録媒体1bとして、光磁気記録媒体を用いた光磁気ディスクを用いてもかまわない。

## 【0057】

以下、ディスク1として光磁気ディスクを用いて記録・再生を行う記録再生装置の例を図4を用いて説明する。光磁気ディスクに対して記録を行うためには、記録磁界が必要となる。このため、レーザ光11が集光される部分に、記録磁界を印加する必要がある。そこで、スライダ7には磁気ヘッド（磁界発生素子）40が埋め込まれている。また、磁気ヘッド40を一体的に有するスライダ7以外の構成については、図2に示した構成と同一である。

## 【0058】

ディスク1に情報を記録する際、ディスク1上に照射されるレーザ光11がディスク基板1aに形成された記録媒体1bの温度を上げることによって、記録媒体1bの保磁力を小さくする。このとき、磁気ヘッド40により磁界が発生しディスク1に磁界を与えることになる。

## 【0059】

光ピックアップ4は、発光検出光学系10から出射されたレーザ光11を対物レンズ12により集束させてディスク1に照射する。上述したようにディスク1の保磁力を小さくするとともに、磁気ヘッド40から磁界が与えられることによりディスク1上の磁化の向きを変える。このとき、磁気ヘッド40と光ピックアップ4とは一体的に駆動される。これにより、ディスク1に情報の記録が行われる。

## 【0060】

このように、スライダ7が磁気ヘッド40を備えることにより、記録に磁界が必要な記録媒体を用いた光磁気ディスクを用いて、情報の記録・再生を行うことができる記録再生装置を提供することができる。

## 【0061】

図4に示した構成においても、図2に示した構成と同様、第1安定化板5を有し、また、第1安定化板5とディスク1を挟んで対向するようにスライダ7を備える。これにより、対物レンズ12や対物レンズ12を備えた光ピックアップ4が移動しても、ディスク1および光ピックアップ4周辺の圧力変動を抑制することにより、ディスク1の回転の安定化を図ることができることにより、ディスク1として薄いディスクを用いても、安定して良好な記録・再生の実現を図ることができる記録再生装置を提供することができる。また、第1安定化板5はすり鉢状の開口部5aを有しているので、レーザ光11の利用効率の向上を図ることができ、また、ディスク1と第1安定化板5との間の空気圧力の乱れを抑制することができるため、ディスク1の回転の安定化を図ることができる。

## 【0062】

また、対物レンズ12は、図2に示すような単レンズに限定されるものではなく、少なくとも2つのレンズを組み合わせた群レンズを用いてもかまわない。例えば、図1に示した記録再生装置に、対物レンズ12として2つのレンズを組み合わせた2群レンズを用いた構成の一例を図5に示す。

## 【0063】

対物レンズ12としての2群レンズはレンズ50とレンズ51とからなる。これにより、対物レンズ12の開口数NAを大きくすることができる。具体的には、2群レンズを用いた場合、対物レンズ12の開口数NAは0.7以上とすることができ、より好ましくは0.8～0.95程度とすることができる。従って、ディスク1に照射するレーザ光11のスポットサイズを小さくすることができる。これにより、ディスク1の記録容量の増大を図ることができ、ディスク1の高密度化を図ることができる。こうして、高密度記録再生に適した記録再生装置を提供することができる。

## 【0064】

対物レンズ12に単レンズを用いて開口数NAを大きくすることも可能ではあるが、2群レンズを用いることにより、開口数NAの大きな対物レンズ12の製造が容易となる。従って、本実施の形態のように開口数NAを0.7以上とする

場合には、対物レンズ12に2群レンズを用いることが好ましい。

【0065】

なお、図5は、磁気ヘッド40を備えた構成となっており、ディスク1として光磁気ディスクを用いた例としているが、光ディスクを用いてもかまわない。この場合、磁気ヘッド40は不要である。

【0066】

さらに、図6に示すように、第1安定化板5は光ピックアップ4に板バネ60（弾性部材）を介して固定されていてもかまわない。図6に示す構成は、図4に示した記録再生装置の構成に、さらに、第1安定化板5と光ピックアップ4との間に板バネ60を追加した構成である。

【0067】

図6に示すように、第1安定化板5は板バネ60を介して光ピックアップ筐体15に固定されている。同図に示す構成によれば、外部からの振動によりスライダ7が振動し、ディスク1とスライダ7との間の圧力により、ディスク1が押されて、スライダ7の振動に伴い振動した場合においても、板バネ60の伸縮により、ディスク1と第1安定化板5との間の空気圧力と、ディスク1とスライダ7との間の空気圧力が釣り合うように、ディスク1の振動に第1安定化板5が追従することができる。

【0068】

従って、外部振動に伴うディスク1と第1安定化板5との衝突によるディスク1の損傷を防止することができる。

【0069】

なお、板バネ60は弾性を有するものであれば、その材料はバネに限定されるものではなく、ゴムや発泡性樹脂等を使用することもできる。ここで、バネとは、スプリングを含む概念である。このバネは荷重に対して変位を大きくとれる点で材料として好ましい。

【0070】

〔実施の形態2〕

本発明の他の実施の形態について、図7ないし図11に基づいて説明すれば、

以下の通りである。なお、実施の形態 1 における構成要素と同等の機能を有する構成要素については、同一の符号を付記してその説明を省略する。

#### 【0071】

図 7 は、本実施の形態に係る記録再生装置の要部断面図であり、図 1 に示した構成に、さらに第 2 安定化板 70 を追加したものである。また、図 7 は第 2 安定化板 70 の平面図である。なお、図 7 は、図 8 に示す第 2 開口部 72 における第 2 安定化板 70 の径方向の中心線に沿った記録再生装置の要部断面図である。

#### 【0072】

第 2 安定化板 70 は第 1 安定化板 5 よりも大きく、例えば、図 8 に示すようにディスク 1 より僅かに大きな円形をしている。また、第 2 安定化板 70 は、ディスク 1 のセンターハブ 2 をスピンドル 3 にチャッキングするための第 1 開口部 71 と、第 1 安定化板 5 を有する光ピックアップ 4 をディスク 1 に近接配置させるための第 2 開口部 72 とを有する。また、第 2 安定化板 70 は記録再生装置において、ディスク 1 に対向し、かつ、ディスク 1 回転時には、ディスク 1 との間の空間を減圧状態とし得る位置に固定されている。

#### 【0073】

このように、スライダー 7 および第 1 安定化板 5 とは別個に、それらよりも大きな第 2 安定化板 70 をディスク 1 に近づけて対向するように配することによって、ディスク 1 が回転駆動する際には、ディスク 1 と第 2 安定化板 70 との間を減圧状態とすることができる。このとき、ディスク 1 は可撓性を有するため、第 2 安定化板 70 に吸い寄せられて、ディスク 1 と第 2 安定化板 70 との間隔を一定に保ちながら回転する。これにより、光ピックアップ 4 と連動して移動する第 1 安定化板 5 やスライダー 7 でディスク 1 を吸い寄せるようにしてディスク 1 の回転を安定させるよりも、ディスク 1 の回転が安定する。従って、ディスク 1 の回転時のディスク 1 の面振れを抑制することができ、スライダー 7 および第 1 安定化板 5 から離れた位置でのディスク 1 の回転の安定化を図ることができる。

#### 【0074】

これにより、例えば、フォーカス制御の際、光ピックアップ 4 が移動することにより、ディスク 1 と第 1 安定化板 5 との間の空気圧力と、ディスク 1 とスライ

ダー 7 との間の空気圧力とが釣り合うように第 1 安定化板 5 およびスライダー 7 が移動する場合でも、第 1 安定化板 5 およびスライダー 7 から離れた位置でのディスク 1 の回転が安定しているため、ディスク 1 が第 1 安定化板 5 およびスライダー 7 の移動による圧力変動の影響を受けることが少なく、ディスク 1 の面振れがさらに抑制される。これにより、既存のサーボ技術を用いた二軸アクチュエータ 1 4 を用いてもフォーカス制御やトラッキング等が安定し容易となり、より安定して良好な記録・再生の実現を図ることができる記録再生装置を提供することができる。

## 【 0 0 7 5 】

なお、ディスク 1 と第 2 安定化板 7 0 との間の空間を減圧状態とし、ディスク 1 を安定して回転させるためには、ディスク 1 と第 2 安定化板 7 0 との距離を、 $10\mu\text{m}$  以上、かつ、 $200\mu\text{メートル}$  以下とすることが望ましい。

## 【 0 0 7 6 】

また、ディスク 1 を挟んだ光ピックアップ 4 および第 1 安定化板 5 とスライダー 7 との位置関係はディスク 1 に対する上下が逆でもよく、スライダー 7 がディスク 1 の下部（ディスク 1 の第 2 安定化板 7 0 側）にある場合は、第 2 安定化板 7 0 における第 2 開口部 7 2 は、スライダー 7 をディスク 1 に近接配置するための開口部となる。

## 【 0 0 7 7 】

また、上記第 2 安定化板 7 0 は、図 9 に示すように、ディスク 1 を収納するカートリッジ 9 0 の内壁面で構成されていてもかまわない。

## 【 0 0 7 8 】

図 9 は、図 1 に示した記録再生装置がディスクカートリッジ 9 5 のディスク 1 に情報の記録・再生を行う場合の要部の構成を示す断面図である。ここで、ディスクカートリッジ 9 5 とは、ディスク 1 を収納しているカートリッジ 9 0 である。同図に示すように、カートリッジ 9 0 は、その下面（カートリッジ 9 0 においてディスク 1 と対向する面のうち、光ピックアップ 4 側の面）が、上記第 2 安定化板 7 0 としての安定化板部 9 0 a となっている。即ち、カートリッジ 9 0 の下面が、上記第 2 安定化板 7 0 としての機能を有する。なお、図 9 は、図 1 0 に示

す第2開口部92におけるディスク1の径方向の中心線に沿った記録再生装置の要部断面図である。

## 【0079】

安定化板部90aは、ディスク1のセンターハブ2をスピンドル3にチャッキングするための第1開口部91と、第1安定化板5を有する光ピックアップ4をディスク1に近接配置させるための第2開口部92とを有する。また、カートリッジ90の上面（カートリッジ90においてディスク1と対向する面のうち、スライダ7側の面）には、第2開口部92と対向する位置にスライダ7をディスク1に近接配置するための第3開口部93を有する。

## 【0080】

また、図10は、カートリッジ90を光ピックアップ4側、即ち、カートリッジ90の下面側から見たときの平面図である。同図に示すように、カートリッジ90は、さらに、図中矢印方向に開閉可能であり、第1開口部91および第2開口部92を覆うことができるスライドシャッター94を備えている。スライドシャッター94は、第1開口部91および第2開口部92が必要となるディスク1の回転時には開けられているが、ディスク1が収納されたカートリッジ90を記録再生装置から取り出す際には閉じられる。

## 【0081】

また、カートリッジ90の上面には、開口部93を覆うように図示しないスライドシャッターが設けられている。このスライドシャッターも、開口部93が必要となるディスク1の回転時には開けられているが、ディスク1が収納されたカートリッジ90を記録再生装置から取り出す際には閉じられる。これにより、ディスク1への防塵を図ることができる。

## 【0082】

カートリッジ90の下面は安定化板部90aとして上述した第2安定化板70と同様の働きをする。即ち、第2安定化板70がカートリッジ90の一方の内壁面で構成されている。これにより、ディスク1が回転駆動する際には、ディスク1と安定化板部90aとの間が減圧状態となる。このとき、ディスク1は可撓性を有するため、安定化板部90aに吸い寄せられて、ディスク1と安定化板部9

0 a との間隔を一定に保ちながら回転する。これにより、ディスク 1 の回転時におけるディスク 1 の面振れを抑制することができ、スライダー 7 および第 1 安定化板 5 から離れた位置でのディスク 1 の回転の安定化を図ることができる。

【0083】

従って、例えば、光ピックアップ 4 が移動することにより、ディスク 1 と第 1 安定化板 5 との間の空気圧力と、ディスク 1 とスライダー 7 との間の空気圧力とが釣り合うように第 1 安定化板 5 およびスライダー 7 が移動する場合でも、第 1 安定化板 5 およびスライダー 7 から離れた位置でのディスク 1 の回転が安定しているため、ディスク 1 が第 1 安定化板 5 およびスライダー 7 の移動による圧力変動の影響を受けることが少なく、ディスク 1 の面振れがさらに抑制される。これにより、より安定して良好な記録・再生の実現を図ることができる記録再生装置を提供することができる。

【0084】

また、カートリッジ 90 の下面は安定化板部 90 a として上述した第 2 安定化板 70 と同様の働きをすることにより、第 2 安定化板 70 として新たに部品の増加を伴うことなく、ディスク 1 の回転を安定化させることができる。

【0085】

なお、ここでも、ディスク 1 を挟んだ光ピックアップ 4 および第 1 安定化板 5 とスライダー 7 との位置関係はディスク 1 に対する上下が逆でもよく、スライダー 7 がディスク 1 の下部（安定化板部 90 a 側）にある場合は、カートリッジ 90 における第 2 開口部 92 は、スライダー 7 をディスク 1 に近接配置するための開口部となり、第 3 開口部 93 は、第 1 安定化板 5 を有する光ピックアップ 4 をディスク 1 に近接配置するための開口部となる。

【0086】

次に、図 11 に基づいて、第 2 安定化板 70 を、ディスク 1 を収納するカートリッジ 96 の両方の内壁面で構成している記録再生装置について説明する。

【0087】

図 11 に示すように、記録再生装置の構成は図 9 と同様であるが、ディスクカートリッジ 95 ではなく、ディスク 1 がカートリッジ 96 に収納されたディスク

カートリッジ 9 7 を備える。

【 0 0 8 8 】

カートリッジ 9 6 の下面は、カートリッジ 9 0 と同様に図 1 0 に示す安定化板部 9 0 a を有し、第 1 開口部 9 1、第 2 開口部 9 2、第 3 開口部 9 3 およびスライドシャッター 9 4 を有している。また、カートリッジ 9 6 の上面にも、カートリッジ 9 0 と同様に、図示しないスライドシャッターが第 3 開口部 9 3 を覆うように設けられている。これにより、ディスク 1 への防塵を図ることができる。

【 0 0 8 9 】

また、カートリッジ 9 6 は図 9 に示したカートリッジ 9 0 と異なり、カートリッジ 9 6 のディスク 1 と対向する面におけるスライダー 7 側の面（以下、カートリッジ 9 6 の上面と称する）と光ピックアップ 4 側の面（以下、カートリッジ 9 6 の下面と称する）との間の幅（ディスク 1 とカートリッジ 9 6 の両方の内壁面との距離）を、カートリッジ 9 6 が第 2 安定化板 7 0 と同様の働きをする範囲に制限している。

【 0 0 9 0 】

即ち、カートリッジ 9 6 のディスク 1 に対向する上下面が共に、第 2 安定化板 7 0 と同様の働きをするためには、カートリッジ 9 6 の上下面がディスク 1 との間の空間を減圧状態にし得る位置になければならない。

【 0 0 9 1 】

具体的には、ディスク 1 とカートリッジ 9 6 の上面との距離、および、ディスク 1 とカートリッジ 9 6 の下面との距離は、それぞれ、 $10\mu\text{m}$  以上、かつ、 $200\mu\text{メートル}$  以下とすることが望ましい。

【 0 0 9 2 】

ディスク 1 と、カートリッジ 9 6 のうちディスク 1 に対向する面との間の距離を、 $10\mu\text{m}$  以上とすることにより、外部から振動等の影響が与えられた際に、ディスク 1 とカートリッジ 9 6 とが衝突し、ディスクに傷が発生することを防止することができる。

【 0 0 9 3 】

また、ディスク 1 と、カートリッジ 9 6 のうちディスク 1 に対向する面との間



の距離を、 $200\mu\text{m}$ 以下とすることにより、ディスク1は振動等の外部からの影響を受けにくくなる。即ち、カートリッジ96内の空間が制限されているため、外部で振動が生じたとしても、カートリッジ96の上下面とディスク1との間の減圧状態が阻害されることが少ない。これにより、ディスク1が振動等の外部からの影響を受ける度に、カートリッジ96内のディスク1の回転が不安定なものとなりディスク1がカートリッジ96内の空間で面振れを生じることを抑制できる。従って、ディスク1の回転の安定化を図ることができる。

## 【0094】

上記のように、カートリッジ96の空間を制限することにより、カートリッジ96のディスク1に対向する上下面は共に、上述した第2安定化板70と同様の働きをする。即ち、ディスク1とカートリッジ96との間の減圧状態が安定し、ディスク1は振動等の外部からの影響を受けにくくなる。これにより、ディスク1がカートリッジ96内の空間で面振れを生じることはなく、安定した回転駆動を行うことができる。また、ディスク1のカートリッジ96の上下面への衝突によるディスク1表面における傷の発生を防止することができる。

## 【0095】

従って、上記カートリッジ96を備えた記録再生装置は、例えば、光ピックアップ4が移動することにより第1安定化板5およびスライダー7が移動した場合においても、スライダー7および第1安定化板5から離れた位置でのディスク1の回転のさらなる安定化を図ることができる。これにより、より安定して良好な記録・再生を行うことができる。

## 【0096】

また、上記第2安定化板70がカートリッジ96の上下面で構成されていることにより、第2安定化板70として新たに部品の増加を伴うことなく、ディスク1の回転をより安定化させることができる。

## 【0097】

また、上記のように、ディスク1の回転の安定化を図ることができることにより、ディスク1として厚さの薄いディスクを用いることができる。ここで、ディスク1に有効に可撓性を持たせるためには、ディスク1の厚さは $30\mu\text{m}$ 以上、

かつ、 $400\mu\text{m}$ であることが望ましい。ディスク1は可撓性を有しているため、その厚さが $30\mu\text{m}$ より薄い場合、ディスク1が回転に耐える強度を維持することが困難となる。また、ディスク1の厚さが $400\mu\text{m}$ よりも厚い場合、ディスク1の可撓性が弱くなり、これにより、ディスク1と安定化板部90aとの間が減圧状態となっても、安定化板部90aにディスク1が吸い寄せられず、ディスク1の回転時の面振れの抑制効果が低減する。

## 【0098】

## 【発明の効果】

以上のように、本発明の記録再生装置は、ディスクと集光手段との間に配され、該集光手段と連動する第1安定化板と、ディスクを挟んで第1安定化板と対向するように配され、かつ、揺動可能に支持される、対向平面を有するスライダとを備え、第1安定化板には、レーザ光の光路上に、レーザ光が通過し得る開口部が設けられている構成である。

## 【0099】

これにより、スライダとディスクとの間、および、第1安定化板とディスクとの間が共に加圧状態となり、それらが釣り合うことにより、ディスクはスライダおよび第1安定化板と一定の間隔を保ちながら回転する。従って、ディスクの回転時におけるディスクの面振れを抑制することができ、ディスクの回転の安定化を図ることができる。

## 【0100】

また、集光手段と連動する第1安定化板をディスクと集光手段との間に配することにより、ディスクに対向する集光手段側の面が平坦な面となり、その面上におけるディスクとの間の空気圧力は均一化される。このため、例えばフォーカス制御を行うために集光手段が移動したとしても、第1安定化板とディスクとの間の空気圧力の変動が抑制され、ディスクの面振れを抑制することができる。

## 【0101】

さらに、スライダがディスクに対して垂直方向に揺動可能に支持されていることにより、例えば集光手段を有する光ピックアップ等が移動して、ディスクと第1安定化板との間の空気圧力に変動があった場合でも、それに伴い、ディスク

と第1安定化板との間の空気圧力と、ディスクとスライダーとの間の空気圧力とが釣り合うように、スライダーもディスクに対して進退移動する。しかも、スライダーも対向平面を有するので、相互の空気圧力の釣合いが、容易かつ安定してとれる。従って、ディスク周辺での圧力変動によるディスクの面振れが抑制され、例えばフォーカス制御、および、トラッキング等が安定し、容易となる。

## 【0102】

この結果、集光手段や集光手段を備えた光ピックアップが移動しても、ディスクの回転の安定化を図ることができることにより、薄いディスクを用いても、安定して良好な記録・再生の実現を図ることができる記録再生装置を提供することができる。また、第1安定化板に開口部が設けられていることにより、第1安定化板の材料の選択の範囲が広がり、従って、加工性が良く、耐久性の良い材料から第1安定化板を構成することができ、さらに、レーザ光は第1安定化板表面で反射することないため、記録再生装置の低消費電力化を図ることができるといった効果を奏する。

## 【0103】

本発明の記録再生装置は、開口部が、第1安定化板を通過するレーザ光の光路に対応したすり鉢状の形状である構成である。

## 【0104】

上記の構成によれば、第1安定化板で通過するレーザ光を遮ることなく、開口部におけるディスクと対向する部分の大きさを小さくすることができる。従って、ディスク回転時に開口部において発生する空気の乱流を抑制することができ、ディスクの面振れを抑制することができる。これにより、ディスクの回転の安定化を図ることができるといった効果を奏する。

## 【図面の簡単な説明】

## 【図1】

本発明の実施の一形態に係る記録再生装置の要部の構造を示す断面図である。

## 【図2】

図1に示した記録再生装置の要部の構造を示す拡大断面図である。

## 【図3】

第 1 安定化板の斜視図である。

【図 4】

図 1 に示した記録再生装置において光磁気ディスクを用いる場合の要部の構成を示す拡大断面図である。

【図 5】

図 1 に示した記録再生装置において 2 群レンズを用いる場合の要部の構成を示す拡大断面図である。

【図 6】

図 1 に示した記録再生装置において第 1 安定化板を光ピックアップにバネを介して固定する場合の要部の構成を示す拡大断面図である。

【図 7】

本発明の実施の他の形態に係る記録再生装置の要部の構成を示す断面図である。

【図 8】

第 2 安定化板の平面図である。

【図 9】

本発明の実施の他の一形態に係る記録再生装置の第 2 安定化板がカートリッジの両方の内壁面で構成されている場合の要部の構成を示す断面図である。

【図 1 0】

カートリッジの詳細図である。

【図 1 1】

図 8 に示した記録再生装置においてディスクカートリッジの空間を制限する場合の構成を示す断面図である。

【図 1 2】

従来の記録再生装置の要部の構成を示す断面図である。

【図 1 3】

従来のカートリッジを用いた記録再生装置の要部の構成を示す断面図である。

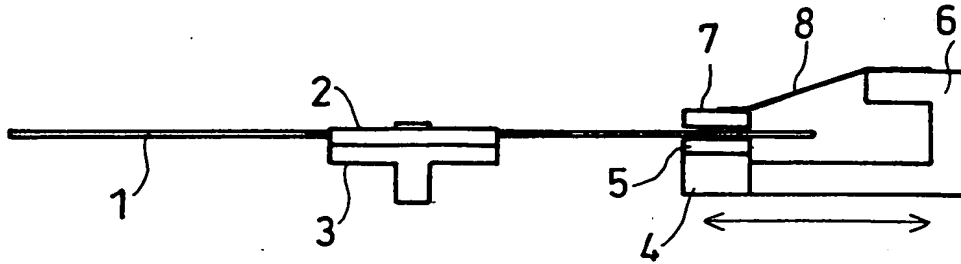
【符号の説明】

1      ディスク

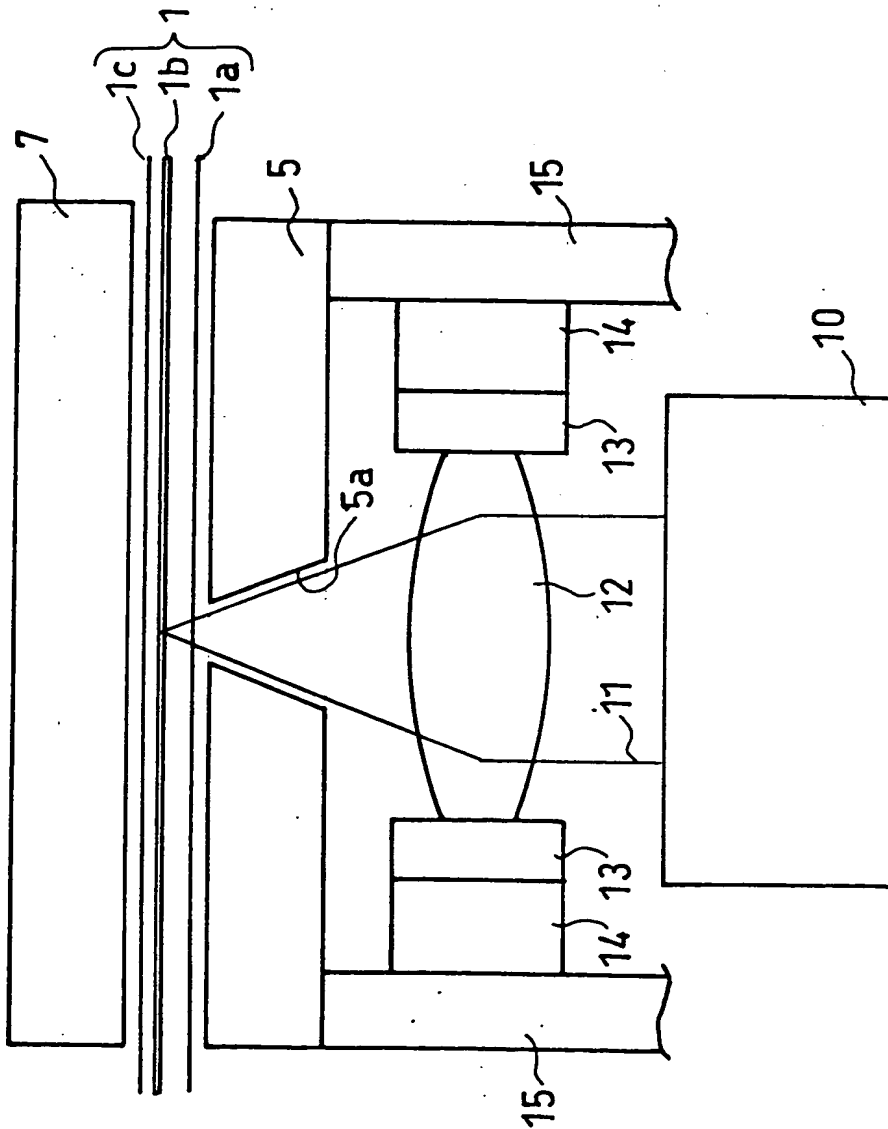
- 1 a ディスク基板
- 1 b 記録媒体
- 1 c 保護層
- 2 センターハブ
- 3 スピンドル（回転駆動手段）
- 4 光ピックアップ
- 5 第1安定化板
- 5 a 開口部
- 6 支持部
- 7 スライダー
- 8 サスペンション（付勢手段）
- 1 0 発光検出光学系（光源）
- 1 1 レーザ光
- 1 2 対物レンズ（集光手段）
- 1 3 レンズホルダ
- 1 4 二軸アクチュエータ
- 4 0 磁気ヘッド（磁界発生素子）
- 5 0 レンズ（集光手段）
- 5 1 レンズ（集光手段）
- 6 0 板バネ（弾性部材）
- 7 0 第2安定化板
- 9 0 カートリッジ
- 9 5 ディスクカートリッジ
- 9 6 カートリッジ
- 9 7 ディスクカートリッジ

【書類名】 図面

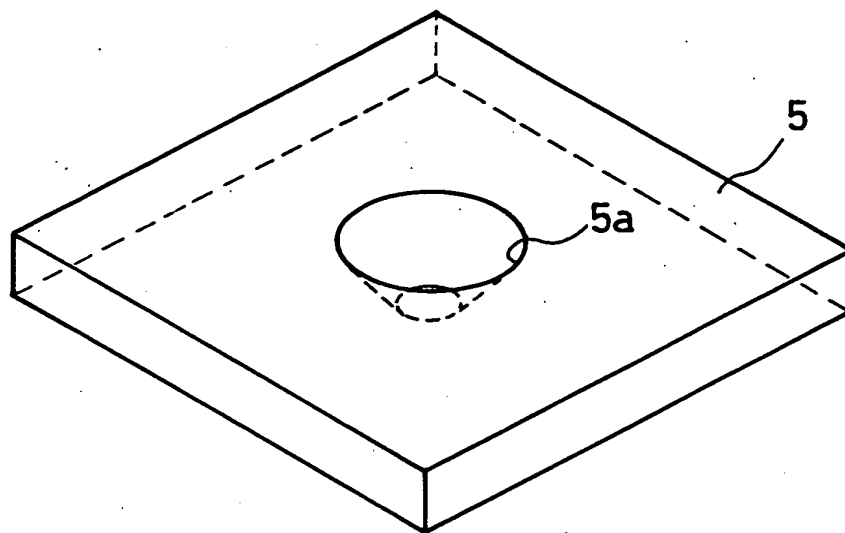
【図 1】



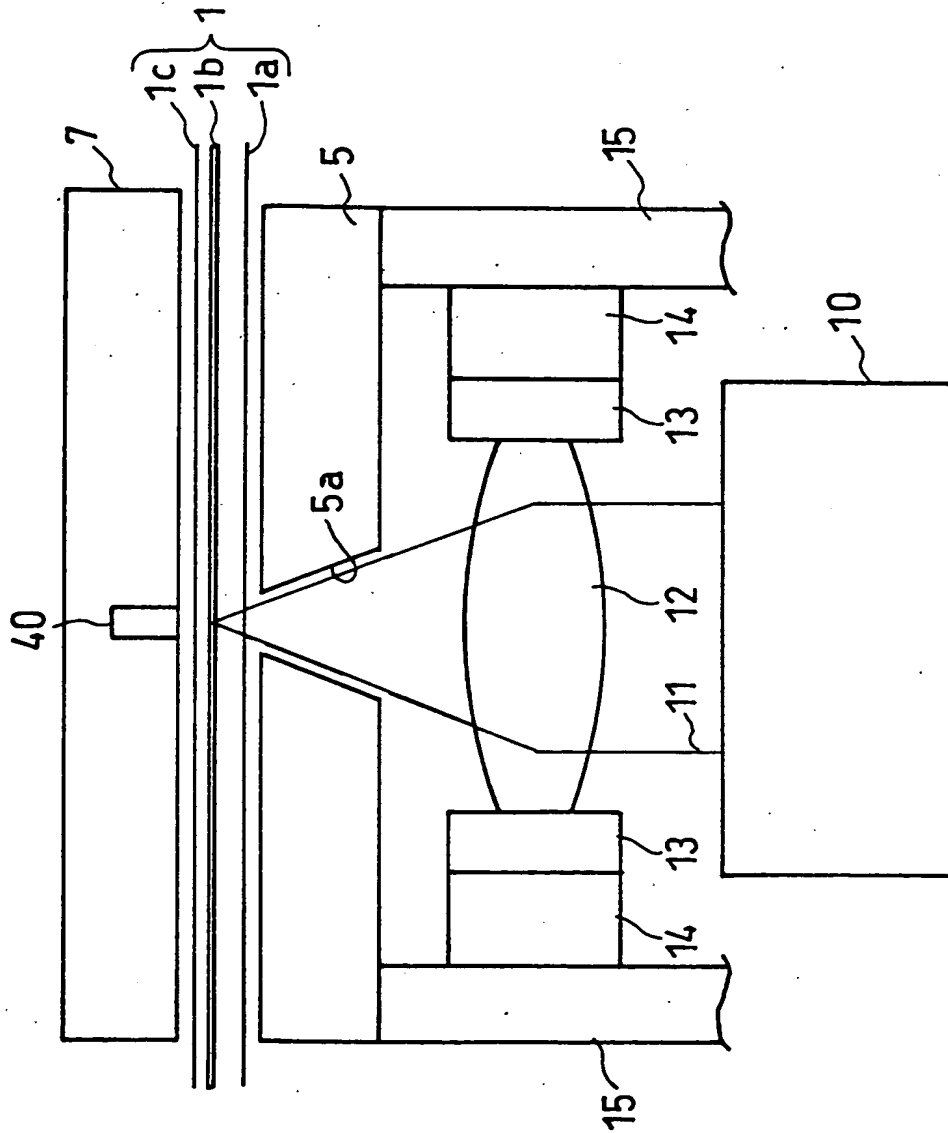
【図 2】



【図3】

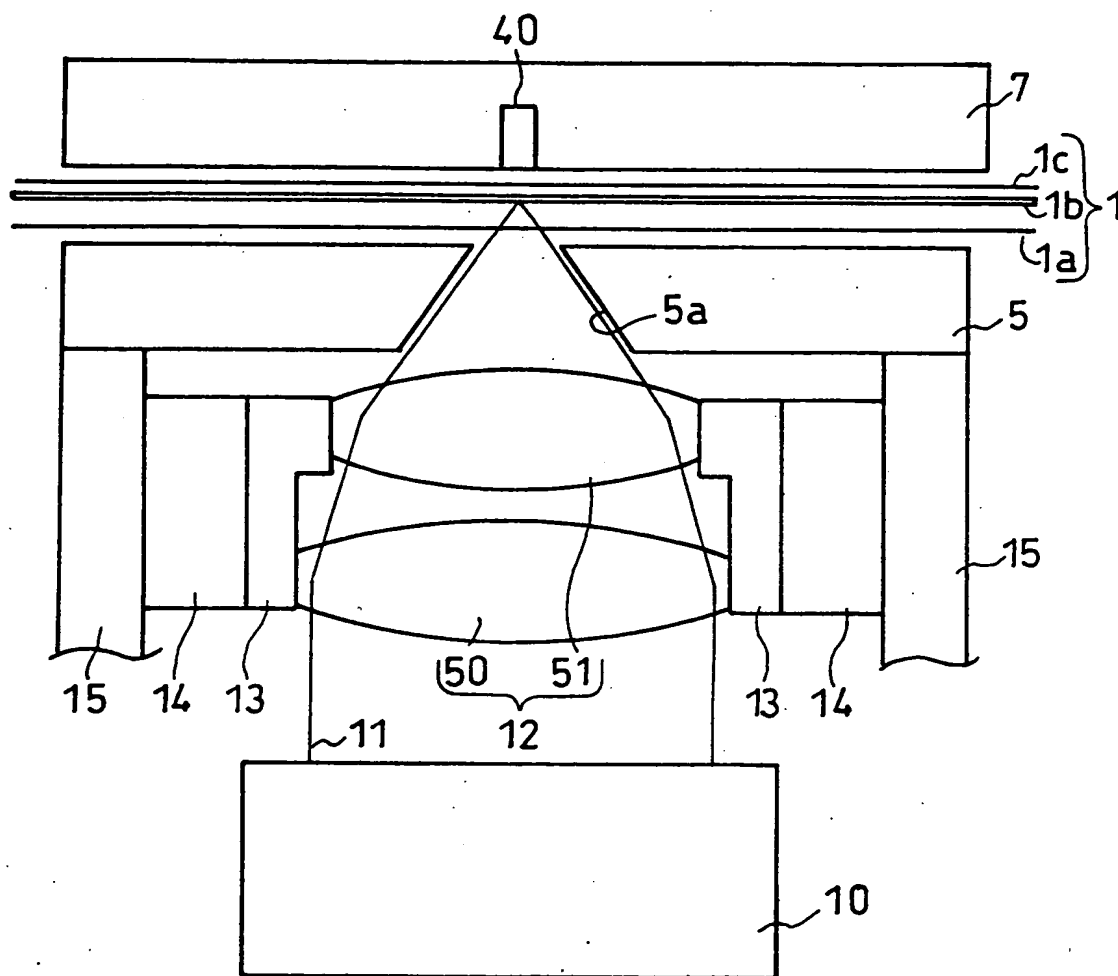


【図 4】

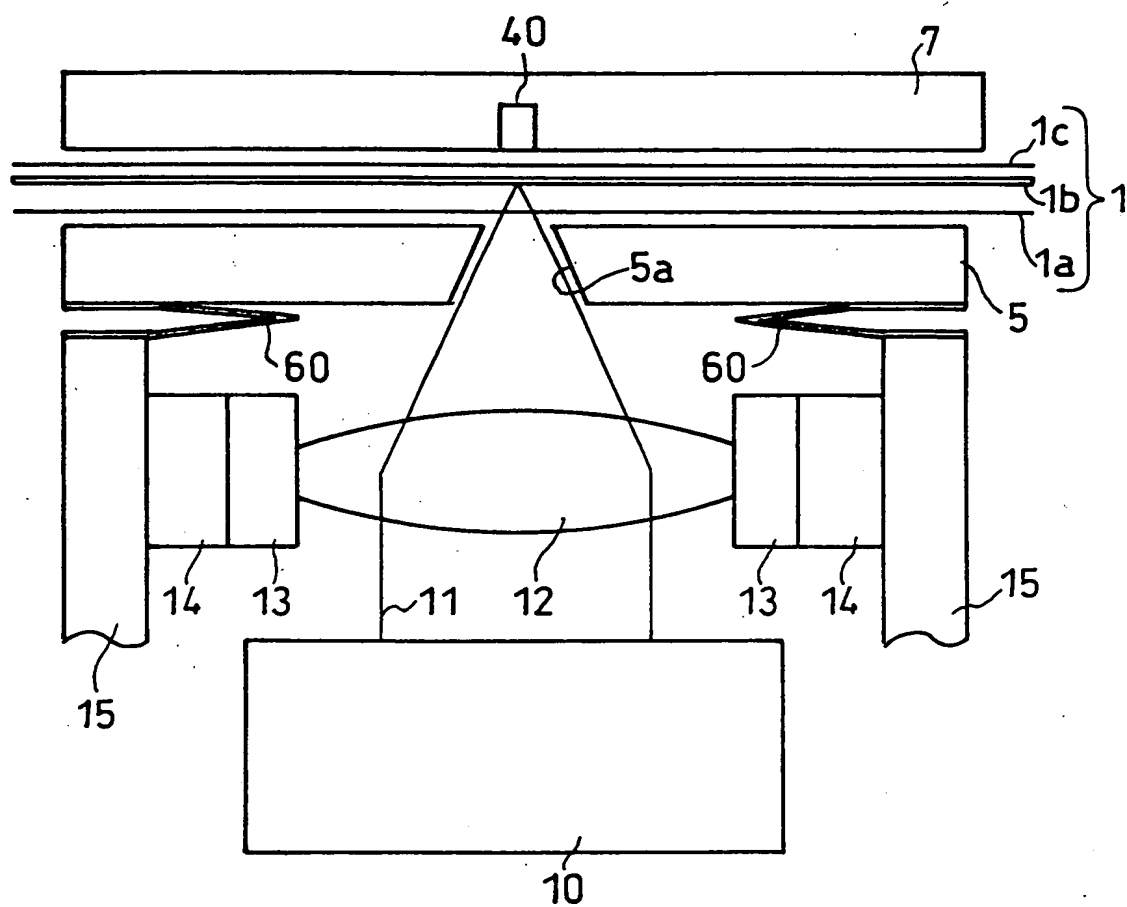




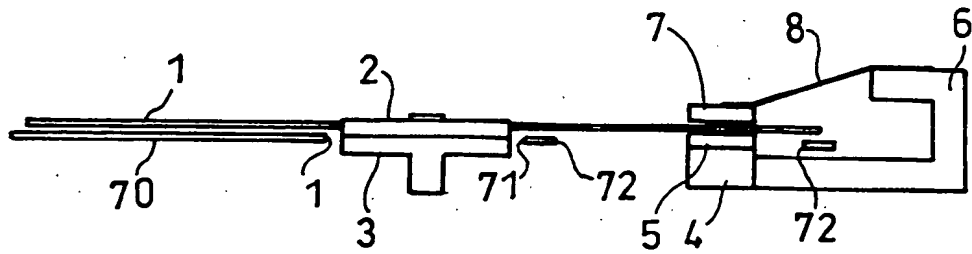
【図 5】



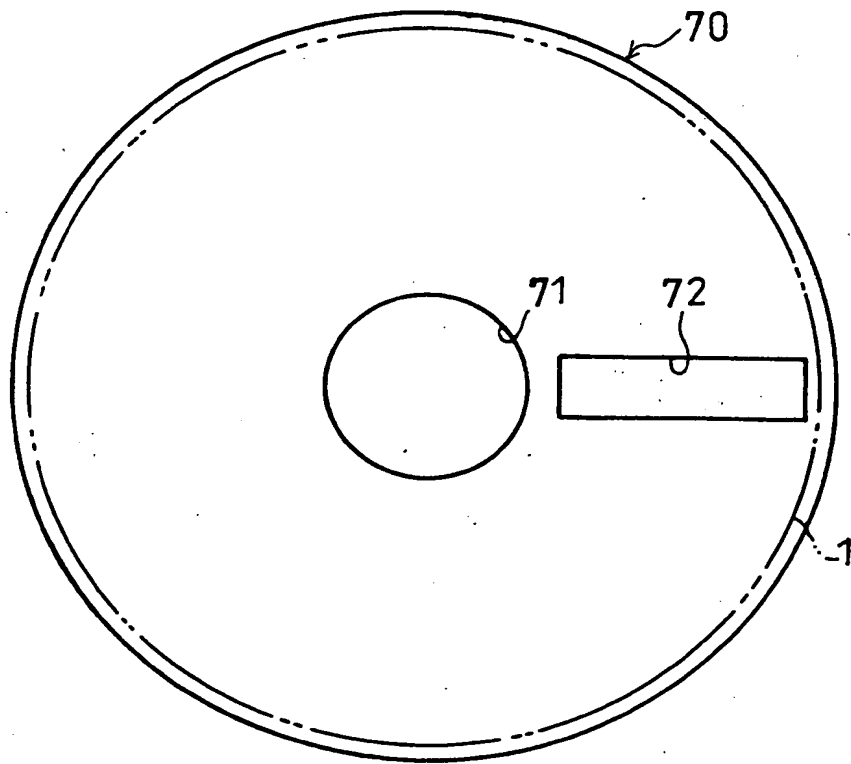
【図 6】



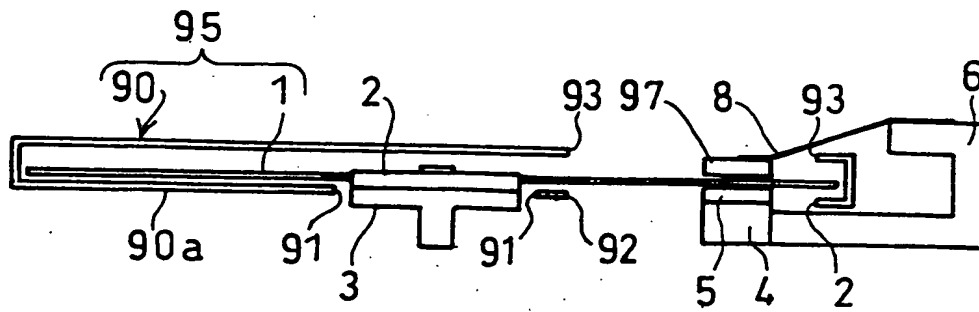
【図 7】



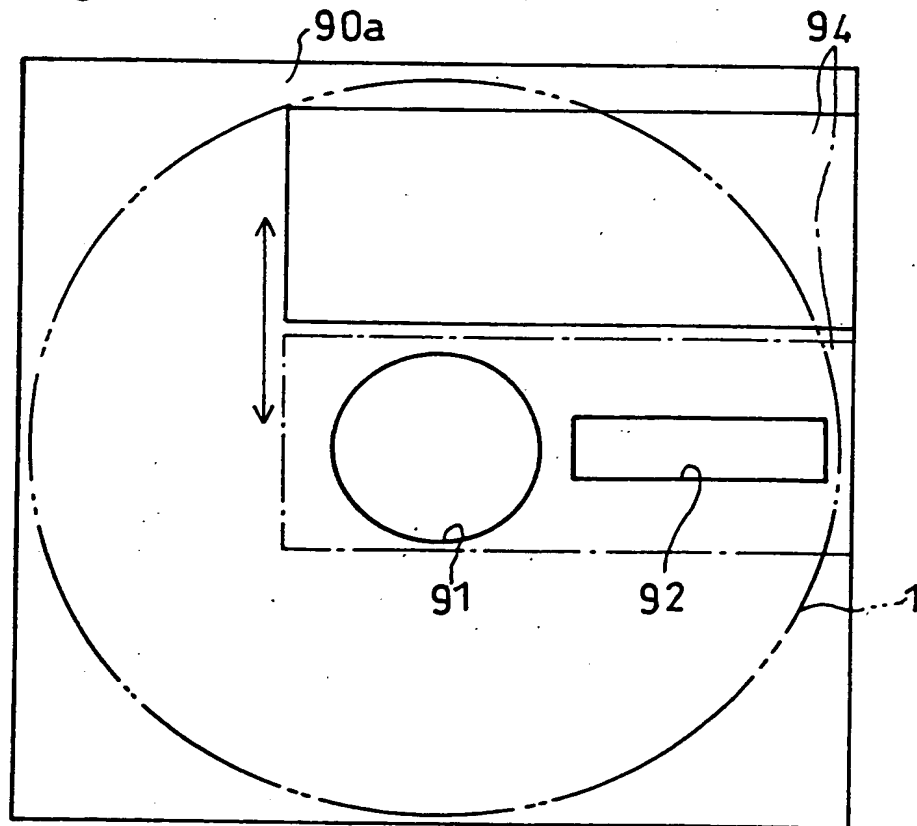
【図 8】



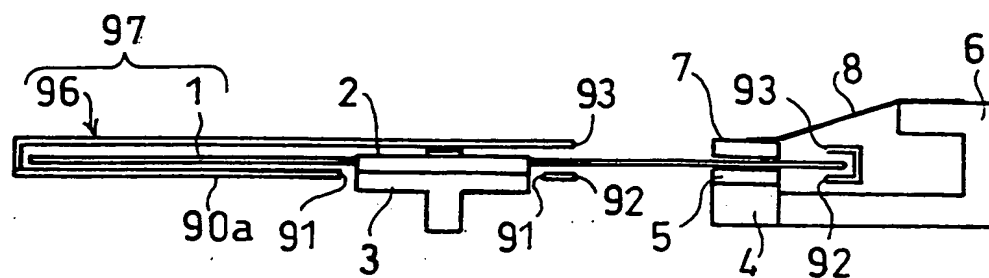
【図 9】



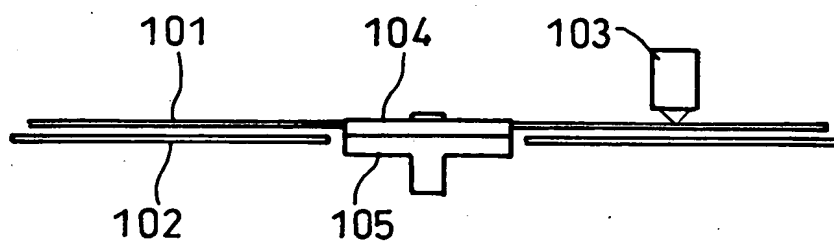
【図 10】



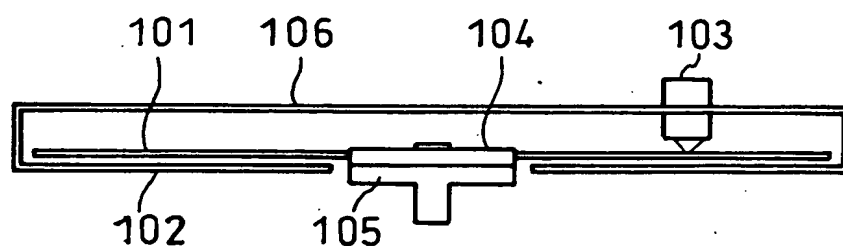
【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 対物レンズや対物レンズを備えた光ピックアップが移動する際等における圧力変動を抑制することにより、光学ディスクの面振れを抑制し、安定して良好な記録・再生の実現を図ることができる記録再生装置を提供する。

【解決手段】 ディスク 1 と光ピックアップとの間には、光ピックアップと連動する第 1 安定化板 5 が配されている。ディスク 1 を挟んで第 1 安定化板 5 と対向するように、スライダ 7 が配されている。スライダ 7 は揺動可能に支持されており、ディスク 1 に対して対向平面を有する。第 1 安定化板 5 は、光ピックアップからディスク 1 に出射されるレーザ光 1 1 の光路上に、レーザ光 1 1 が通過し得る開口部 5 a が設けられている。ディスク 1 回転時には、第 1 安定化板 5 とディスク 1 との間の空気圧力と、スライダ 7 とディスク 1 との間の空気圧力とが釣り合うように、スライダ 7 が進退移動する。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000005049]

1. 変更年月日 1990年 8月29日

[変更理由] 新規登録

住 所 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号

氏 名 シャープ株式会社